

令和 8(2026)年2月

令和 7 年度 学校教育自己診断 結果報告書

羽曳野市立高鷲南中学校
校長 松尾 裕文

本校では「だれもかれもが互いに認め合い 一杯のびのびと生活できる学校にしよう」を教育目標に掲げ、一人ひとりの個性が尊重され、互いに高め合える学校づくりを進めております。

今回の自己診断では、多くの生徒・保護者の皆様から肯定的な評価をいただきました。しかし、学校目標に照らし合わせれば、約 1 割から 3 割の皆様が、まだ「のびのびと生活できている」と実感できていない現状がございます。お寄せいただいた貴重な課題を、次なる一歩への指針として真摯に受け止め、以下の通り分析・ご報告いたします。

1. 全体的な現状分析:一人ひとりの満足度に向き合う

肯定的な数値の裏側にある「不安や迷い」を抱える方々の視点から、現状を分析しました。

(1) 学校生活の安心感と「未だ届かぬ思い」

生徒の視点(Q1): 86.3%の生徒が「学校が楽しい」と答える一方、13.7%(約 7 人に 1 人)の生徒が否定的な回答をしています。全ての生徒が「認め合えている」と実感できる集団づくりが、依然として私たちの大きな目標です。

保護者の視点(Q1): お子様「学校が楽しくない」と感じておられる保護者の方が 15.4%おられます。ご家庭での小さなサインを学校が迅速にキャッチし、寄り添えているか、今一度点検が必要です。

(2) 学びの場における心理的安全性(Q6・Q8)

授業への期待(保護者 Q6): お子様の授業理解に不安を感じておられる保護者様が約 3 割おられます。

質問へのためらい(生徒 Q8): 生徒全体の 16.7%が「先生に質問しにくい」と感じています。教育目標にある「のびのびと生活する」ためには、学びの場での「分からない」を許容し合える空気が不可欠です。

2. 学年別の分析:成長の軌跡と「仕上げ」の視点

(1) 第1学年:新しい環境への順応と集団形成の初期段階

・現状の特色(強み)

部活動の充実度(95.1%)が高く、新しい環境において放課後の活動が大きな意欲の源泉となっています。また、人権に関する学び(95.9%)への認識も高く、他者を尊重しつつ自分たちの居場所を積極的に作る姿勢が見られます。

・今後の視点(課題)

一方で「将来の夢・目標(73.8%)」は全学年で最も低くなっており、これは現時点での学校生活への適応に注力している表れでもありますが、次年度に向けて、自身の適性や社会との関わりに少しずつ目を向けさせるキャリア教育の「種まき」を、組織的に進めていく必要があると捉えています。

(2) 第2学年:自己形成期の質的変容と学習面への不安

・現状の特色(強み)

2年生は「将来の目標(95.7%)」が非常に高い数値を示しており、自己の進路に対する意識が大きく芽生えています。また、先生が自分を認めてくれている(90.4%)という信頼関係も、学年全体で高く維持されています。

・今後の視点(課題)

一方で、学習面(授業のわかりやすさ 72.3%、質問のしやすさ 72.3%)において評価が慎重になっています。これは学習内容の軟化に対し、学校側のフォローが個々のつまずきが届ききっていない可能性を示すものです。将来への意欲を削ぐことのないよう、より丁寧な個別支援と、質問しやすい雰囲気づくりを最優先の課題として共有しています。

(3) 第3学年:最高学年としての学びの深化と自律の促進

・現状の特色(強み)

3年生は「授業での交流(96.6%)」や「少人数・分割授業(生徒 96.6%)」への評価が極めて高く、教員と生徒が共に作り上げる安定した学習環境が構築されています。

・今後の視点(課題)

基本的な生活習慣の指導(96.6%)などの認識も非常に高い状態にあります。学校側の指導が「伝わっている」というこの結果を、単なる知識の伝達に終わらせず、卒業後の自立した生活に繋がる「確かな実践力(行動)」としていかに定着させるかが、集大成としての課題であると考えております。

3. 学習指導 — 「わかる」を支え「自立した学び手」を育てる —

(1) 「質問しやすさ」を再定義する授業改善

全校的に授業のわかりやすさ(80.0%)や質問のしやすさ(83.3%)は一定の評価を得ておりますが、学習内容が高度化する時期に満足度が一時的に停滞する傾向を重く見ております。特に「質問のしやすさ」で「とても思う」と回答した生徒の割合(2年生 15.96% など)の向上は喫緊の課題です。教員に質問する勇気を待つだけでなく、生徒同士が互いのつまづきを共有し解決できる「教え合い・学び合い」の時間を全学年で標準化し、心理的なハードルを下げる工夫を行います。

(2) ICT 活用の質的深化

生徒の 93.1% が効果を実感している ICT 活用については、もはや特別な活動ではなく日常の学びの一部として定着しています。今後はこの「活用」を、単なる効率化から、自分の考えを深め、他者と共有し合うための「思考の道具」としての活用へとさらに進化させてまいります。

4. 生活指導 — 知識の伝達から家庭・地域との共有へ —

(1) 生活習慣・食育指導の実効性

「生活習慣」や「食育」に関する指導・説明を行っているという認識は、生徒全体で 94.0% に達しており、指導は生徒へ届いております。一方で、保護者アンケート(食育指導 83.8%)と比較すると、学校での指導が家庭での具体的な行動変容や実感に繋がるまでには、まだ改善の余地があると考えております。学校での啓発が各家庭の生活改善のヒントとなるよう、より実践的で「見える化」された発信を模索します。

(2) 相談体制と「承認」の強化

「自分を認めてくれる先生がいる(89.9%)」という信頼関係を基盤に、いじめや暴力(生徒肯定率 88.1%)への適切な対応を継続して追求し、生徒一人ひとりが「自分の居場所がある」と確信できるよう、日常的な見守りと適切なフィードバックを組織的に行います。

5. 今後の具体的な重点アクション

皆様からお寄せいただいた改善へのご期待を、日々の指導の緊張感へとつなげ、以下の点に注力して取り組んでまいります。

①「集大成」としての仲間づくりの支援

卒業や進級を控え、これまでの絆を再確認し、互いを認め合える最高の状態で次のステージへ羽ばたけるよう、行事や日常の活動を通じた「集団の仕上げ」を全力でサポートします。

②「誰もが」発言できる授業改革の推進

保護者様の約 3 割が感じている学習面の不安に応えるため、「質問しにくい」と感じている生徒の心理を汲み取った、丁寧な机間指導と対話重視の授業を展開します。「学び合い」による授業スタイルを拡充し、生徒同士が支え合える授業を推進します。

③小さな声を拾い上げる相談体制の充実

数値に現れない 1 割、2 割の「そう思わない」という思いを抱えた生徒に対し、教育目標の通り、誰もが「自分はここにいていいんだ」と思える居場所づくりを徹底します。

④家庭との連携の「質」の向上

ホームページや tetoru の活用した情報発信には概ね好評価をいただいています。これらをさらに有効活用し、学習や生活指導面においても学校、家庭の双方でよりよい連携ができるように努めます。

6. おわりに

今回の自己診断の結果を振り返り、本校の教育活動が多くの方々の温かいご理解とご協力に支えられていることを、改めて実感しております。肯定的な評価は教職員の励みとし、寄せられた課題は本校がさらなる成長を遂げるための貴重な指針として真摯に受け止めます。

数値の背後にある一人ひとりの声に耳を傾け、現状に満足することなく、生徒が「明日も行きたい」と思える学校、保護者の皆様が「通わせてよかった」と思える学校をめざし、全力を尽くしてまいります。今後とも、本校の教育活動への変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

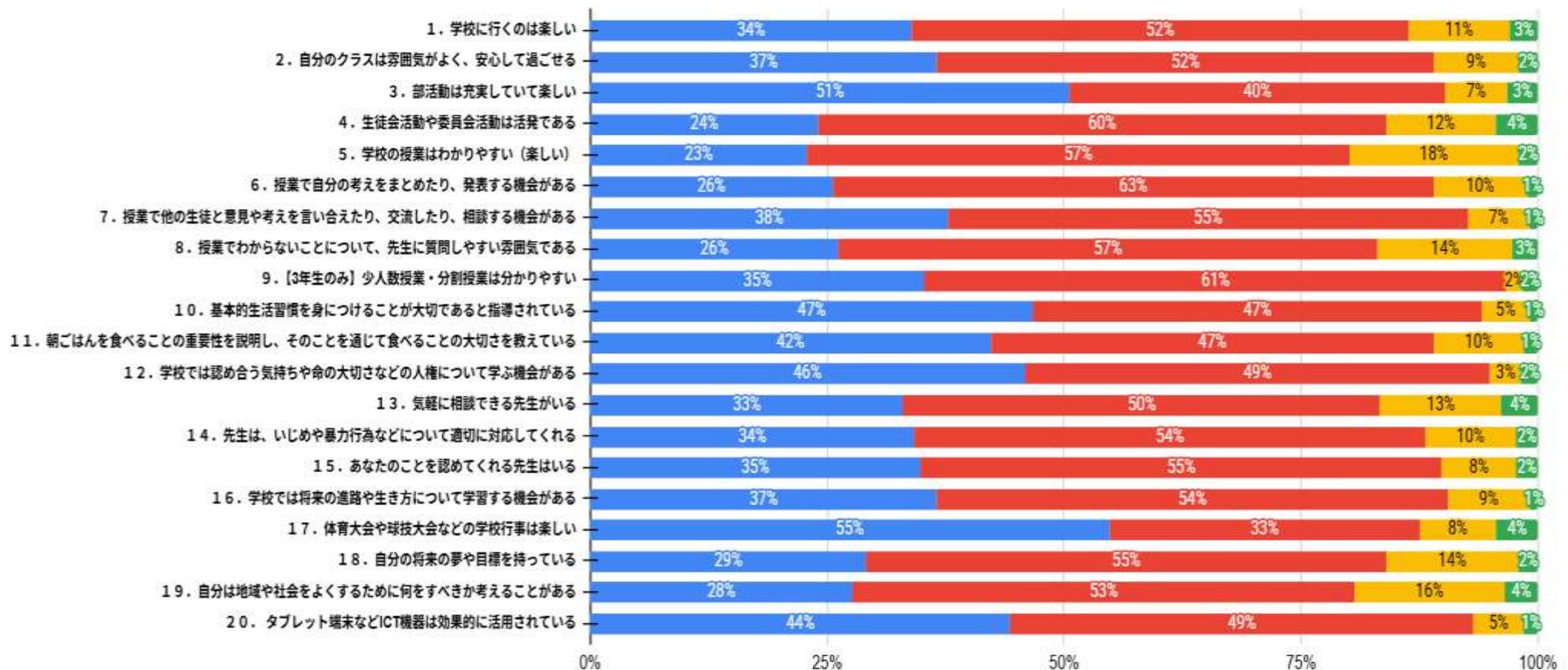
令和7年度学校教育自己診断 生徒アンケート結果(全学年)

羽曳野市立高鷲南中学校

◆実施期間:令和8年1月14日(水)~16日(金)

◆回答者数(回答率) 336名(81.7%)

■ とても思う ■ 思う ■ あまり思わない ■ 全く思わない



質問項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
達成率	86.3%	89.3%	90.2%	83.9%	80.0%	89.0%	92.5%	83.3%	96.6%	94.0%	89.0%	94.9%	83.3%	88.1%	89.9%	90.5%	87.5%	83.9%	80.6%	93.1%
前年比	↑	↓	↑	↓	↓	↑	↓	↑	↑	↓	↓	↑	↑	↑	↑	↑	↓	↑	↑	-
R6年度	83.3%	90.2%	86.3%	88.4%	87.8%	88.1%	95.5%	80.0%	95.2%	96.4%	94.6%	94.0%	81.8%	86.6%	86.9%	89.9%	90.5%	64.8%	68.7%	-
R5年度	85.8%	88.8%	83.7%	87.6%	85.2%	92.5%	95.2%	82.5%	91.6%	96.4%	93.1%	97.0%	81.9%	91.8%	84.3%	92.5%	91.8%	61.9%	64.1%	-

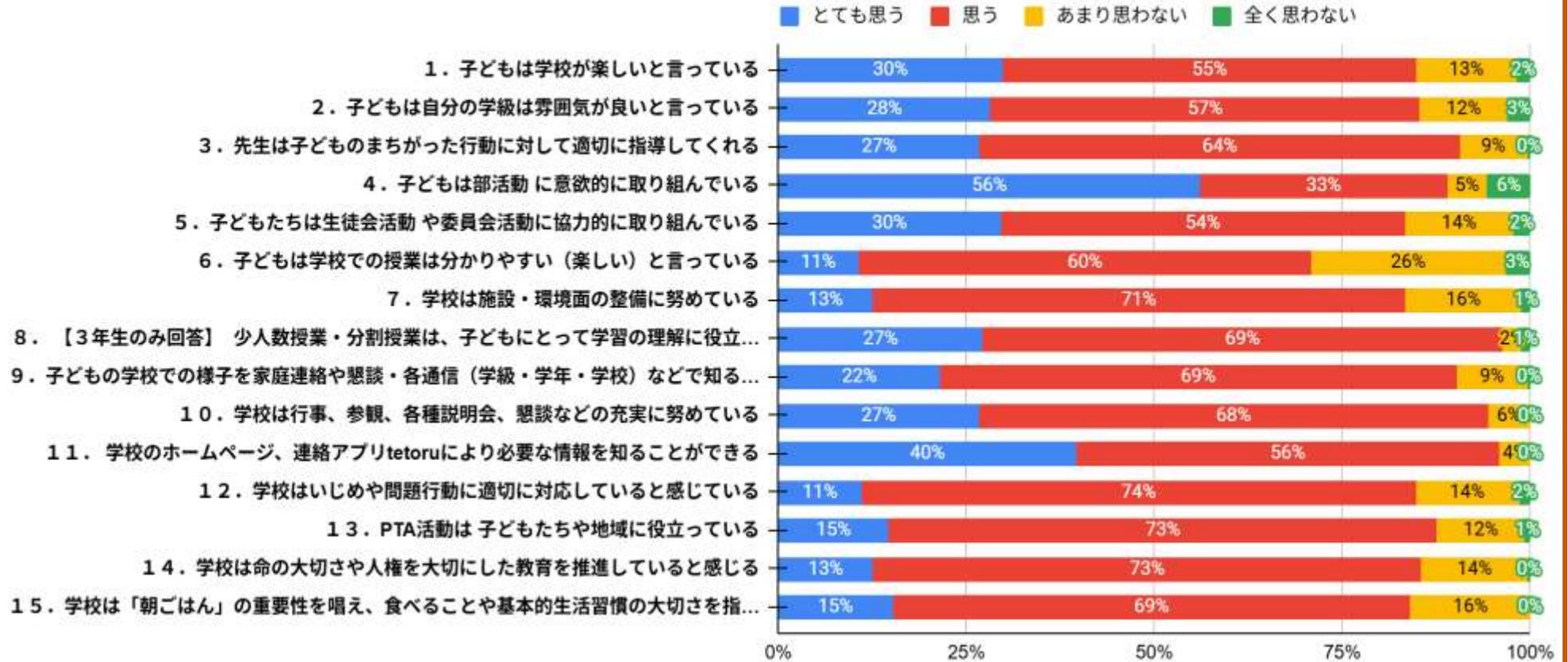
※「達成率」は選択肢の「とても思う」「思う」の肯定的回答の割合です。赤・青のセルは前年比5%以上の変動を示しています。

令和7年度学校教育自己診断 保護者アンケート結果(全学年)

羽曳野市立高鷲南中学校

◆実施期間:令和7年12月16日(火)～令和8年1月16日(金)

◆回答者数(回答率) 266名(64.7%)



質問項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
達成率	84.6%	85.1%	90.4%	88.7%	83.4%	70.8%	83.0%	94.7%	90.0%	94.6%	95.8%	84.4%	87.4%	85.7%	83.8%
前年比	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↓	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↓
R6年度	82.2%	84.2%	85.1%	78.6%	66.5%	69.6%	80.8%	98.6%	86.9%	93.9%	70.5%	77.7%	81.6%	81.2%	84.0%
R5年度	84.0%	88.1%	93.2%	79.1%	65.9%	70.3%	84.1%	86.3%	89.1%	94.6%	73.5%	79.8%	77.1%	85.7%	89.0%

※「達成率」は選択肢の「とても思う」「思う」の肯定的回答の割合です。赤・青のセルは前年比5%以上の変動を示しています。